

巻頭言



熊本県立天草高等学校
校長 前田 三千治

本校は本年度4月から、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されました。この1年間は試行錯誤の連続でしたが、お陰様でここに初年度の研究開発実施報告書を発刊することとなりました。

天然資源に乏しい日本は、人が宝・資源であり「科学立国」として歩んでいます。このSSH事業もそういう人材育成の一環であるとともに、これからさらに求められるであろう「資料や情報を速やかに読み解くこと」、「自ら課題を見つけ、それを解決すること」そして「考えをまとめ、それを正確に表現できること」つまり、「生きる力」の育成に繋がる教育と捉えています。

ここ天草の地は、化石が多く産出するだけでなく地質学にも興味深いところで、ジオパークにも認定されています。また、現生の生物にしても、アマクササンショウウオやゴショウラオサムシ、黒化型の割合が非常に高いシマヘビなど天草固有の生物や特徴的な遺伝子頻度など興味はつきません。メダカ（ミナミメダカ）にしても、きちんと調べられたことがあるのか？ などの疑問もあります。また、天草五橋として有名な橋も様々な工法（連続トラス、ランガートラス、PCラーメン、パイプアーチ等）で造られており、工学的な興味がそそられます。地場産業である漁業や農業においても、研究課題が見つかりそうです。まさに、天草高校は研究フィールドの中にある学校ですが、これまで生徒はそのお宝に気がついていないと思われま

す。このような環境の中、本校のSSH活動は、「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合い言葉に、「地域の豊かな自然環境の中で多様な能力を身に付け、世界に飛躍する科学技術人材の育成を目指す」というテーマを掲げ、より良い教育課程と人材育成の方法、授業改善等について研究開発していくものです。

今年度の1年間は、1年生全員が学校設定科目「天草サイエンスⅠ」を受講しました。まず、「天草学連続講義」で天草の自然や産業、災害等について受講しましたが、関心が人文科学系統に多かったものが自然科学系統にも目が向くようになりました。そして、視野が広がったところでそれぞれグループをつくり、興味を持ったことについて自ら調べたり実験をしたりしながら考えました。それを一旦整理したものをポスターとしてまとめ、10月17日の校内発表会で中間発表会を行いました。その後、さらに深めたものをSSH研究成果発表会として2月27日に行うことができました。

初年度の取組の詳細については本編に譲りますが、1年間での成果としては十分にあったと思います。そして、成果だけでなく今後の課題や改善点を精査し、次年度の活動に繋げていくことが肝要だと思います。

最後になりましたが、このような活動ができたのも文部科学省及び科学技術振興機構、熊本県教育委員会、その他多くの関係機関の皆様のお陰と心より感謝申し上げます、発刊のあいさつといたします。